

北海道剣淵高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和3年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1) 毎時間の農業学習について、明確な目標を打ちだし、個々の生徒がやるべき内容を把握させる。	(1) 授業前に目標(目的)を生徒に確実に伝え、事業にあたった。	(1) 継続実施。	5
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1) 剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タルマ市の特産物キヌアの栽培を通して、世界に目を向けた学習を展開。	(1) 課題研究の授業において実際にキヌアを栽培し、食文化や活用について学習を行った。	(1) 特産化のキヌアを活用した加工品づくりなどの取り組みを実施。	5
II 地域社会・産業に 寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1) 町の特産物であるジャガイモやマメ類を栽培し、地域の理解と栽培過程を学習。 (2) キヌアの認知度UPを図る教育活動の展開。	(1) 特産物栽培を実際に行い、播種から収穫までの作業体系を体験し、理解を深めた。 (2) キヌアの認知度UPを図る活動を実践した。	(1) 継続実施。 (2) 継続実施	5
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1) 2年次における町内農家委託実習、3年次における産業現場実習を実施し、地域産業の仕事に従事することで、地場産業の理解に努める。	(1) 3年次では、産業現場実習5日間実施し、地域の農業理解や関連産業の重要性を理解させた。	(1) 継続実施。	5
III 地球環境を守り 創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1) 温室栽培における冬季のハウス施設の暖房を節約(灯油の使用を抑制)。 (2) プロジェクト学習における循環型農業の推進に努める。	(1) ホウレンソウの無加温栽培に取り組み、燃料の抑制に努めた。 (2) 鶏の糞を発酵させ、堆肥化に取り組んだ。	(1) 継続実施。 (2) 継続実施。	5
	⑥「食農」教育を推進します。	(1) 農業教育の中で、栽培された農産物を実際に食することで、ものありがたみや食料を生産する重要性を理解させる。 (2) 小・中学校との連携授業において食育学習を実施。	(1) 栽培された農産物を実際に食することで農業の役割や食の大切さを教授した。 (2) 感染防止のため一部実施できなかった。	(1) 継続実施。 (2) 次年度も実施を計画。	5
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1) 絵本の里ならではの取り組みとして、絵本を教材とした学習の展開を図り、情操教育に繋げた取り組みを実施する。	(1) 総合的な探究の時間において、絵本を教材とした学習を展開した。	(1) もう少し発展性のある活動を計画。	4
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1) コロナ禍で難しいが、できるだけ学校で生産された農産物や加工品の販売を実施し、本校の教育活動を理解していただく。また、生徒と地域とのコミュニケーションの場として活動を展開。	(1) 今年度3回の農産物を販売することができた。コミュニケーション能力を高められた。	(1) 継続実施。	5
V 地域防災を推進 する学校	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	(1) 農業関連団体や施設への視察を実施し、農業関連産業の理解を深めさせる。	(1) 下川町と名寄市の農家視察を実施し、農業理解に繋げることができた。	(1) 継続実施。	5
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1) 定期的に防火査察を実施し、日頃から防災意識を高める。	(1) 毎月1回必ず防火査察を実施し、万が一に備えた防災教育を推進する。	(1) 継続実施。	5